



# 旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校

学校便り 9月号

平成25年9月2種日発行

発行責任者：竹淵 正人

## 天災と防災

校長 竹淵 正人

43日間の夏休みが終わりました。熱中症や自然災害等が心配されましたが、みんな元気に登校してきました。今年の夏は特に暑かったせいもあり、学校の開放プールにも連日たくさんの子供たちが水しぶきを上げていました。最近の、日本列島の天気は、局地的に大雨、場所によって猛暑。各地でバラバラ。こんな年がめずらしくなっています。私たちが住んでいる練馬も猛暑やゲリラ豪雨に見舞われ被害の遭われた方もいました。今回の東北・北陸・山陰での記録的な豪雨被害も、今までに経験のないほどといっています。異常気象というと、台風・洪水・干ばつが主にいわれます。身近のおかしいなといった現象が、多く起こり始めました。近年、日本列島は、自然災害の頻度が、確実に多くなってきていると感じます。自然現象なのでたまたまとか、偶然とかで片づけてしまいがちですが、毎年のような異常は、もはや異常ではないようです。昨年2月は、日本海側に記録的な積雪、そして低温。竜巻の被害。9月は、厳しい残暑・高温が続きました。今年の気候は、昨年以上に、おかしな現象が起きているようです。地球温暖化・CO2削減のことを、地球規模で真剣に取り組む時期にきています。では、どんな対策をとらなければならないのでしょうか？このような強烈な猛暑がやってくると、果たして何が起こるのか。すぐに想像されるのは、熱中症の増加です。ここ数年も全国で4万~5万人が7~9月に熱中症によって救急搬送されています。単に「暑くて倒れること」だと思って軽く受け止めがちな熱中症ですが、実際には全国で1731人(10年)もの死者がでたほど深刻なものです。死者の多くが高齢者であることも注目されます。暑さにより多量の汗をかくと、水分とともに塩分(ナトリウム)が失われ、倦怠感等の症状がでます。また、水分補給の際に塩分が不足すると低ナトリウム症となり、筋肉が痙攣を始めます。重症になると体温の調節機能が失われ、頭痛やめまいに続いて意識障害をきたします。血液が固まりやすくなって、心筋梗塞や脳梗塞になる場合もあります。9月まではこのような熱中症への対策が必要でしょう。

次に、9月1日は「防災の日」です。災害の備えは大丈夫でしょうか？

東日本大震災からまもなく2年半。今も余震とみられる地震が起き、静岡県の駿河湾から九州東方沖まで続く海底のくぼみ「南海トラフ」沿いでは、巨大地震が起きるかもしれないと心配されています。地震が起きた時に、被害を最小限に食い止めるにはどうしたらよいでしょう。日頃の心構えや用意しておきたい防災グッズなどを点検して、いざという時に使えるようにしておくことが大切です。

### 1 家族で防災について話し合う

- ・家の中や家の周辺に危険な箇所はないか。
- ・寝ているときも避難できる準備。
- ・外出時は、落ち合う場所の確認。(避難場所)

### 2 防災グッズの準備

- ・水、非常食、タオル、救急用品、洋服(下着・防寒着)歯ブラシ、雨具、お金
- ・身分証明書、ヘルメット(防災ずきん)、筆記用具、懐中電灯、携帯ラジオ
- ・ホイッスル、軍手、携帯トイレ、トイレットペーパー(ティッシュ・濡れナプキン)、ポリ袋など、このほかにもオムツなど、各家庭で避難時、必要なものを防災グッズに備えておくことが必要です。

耐震工事が終わった学校は、地域の避難拠点に指定されています。皆さんを受け入れるため、飲料水、非常食を始め、毛布など生命を維持する最低限の準備は整っています。